

幸福とは何ぞや

校長 宅島 健司

玉は琢磨（たくま）によりて器（き）となる。人は練磨により仁となる。何（いづく）の玉かはじめより光有る。誰人（たれびと）か初心より利なる。必ずみがくべし、すべからく練（ね）るべし。自ら卑下して学道をゆるくする事なかれ。

「玉は磨くことで初めて価値がでる。人も自らを磨き鍛錬して初めて真の人となる。世の中に初めから光り輝いている玉があるだろうか、いやない。初めからすぐれた働きをする人がいようか。いやいない。とすれば、必ず磨き、鍛錬すべきである。決して能力や素質がないと自らを卑下して道を学ぶ努力を怠ってはいけない。」

曹洞宗の開祖 道元禅師の「正法眼蔵随聞記」の一節です。私たちがある目的に向かって行動するとき、本気であればあるほどそれ相当の努力をしようとするでしょう。その目的が大きければ大きいほど、難しければ難しいほど他のものを我慢しても、自分自身にでき得る努力をするだろうと思います。能力がどうか素質がないとかやってみなければ分かりません。自分を卑下したり甘やかしたりすることなく努力を怠ってはいけないと思います。自分が決めた目的に向けての努力ならなおさらです。できる限り自分が志を立てたところに向かってなまけずに一心に努力することが大切であると思います。

私もこれまでいろいろな生徒・教職員を見てきて、「一日一日にできることにはそんなに差がないのに、それが3年経つとこんなに差が出るのか」と驚くほど大きな差になっていることがありました。一日一日、何かに向かって努力することが、どんなに大切なことか。時間だけはすべての人間に平等に与えられているのですから、心したいものです。

さて、人はそれぞれ違う環境に生まれ育ち、違う容姿を持ち、違う個性・感性・思考を持っています。だから、何を「幸福」と感じるかは、それぞれ違って当然だと思います。他人の幸福とを感じるものを手に入れたとて私自身は幸福にはなりません。ただ、よくよく「幸福」とは何かについて考えてみると、何かの実現に向けて自分の能力を精一杯に出したときに沸々と湧いてくる「生きていて良かった」という実感ではないでしょうか。自分には限界があることを謙虚に知りつつ、自分の限界すれすれのこと挑戦してそれをやり遂げたとき、自分自身を自分で褒めてやりたいという気持ちは、何ものにも代えがたい人生の喜びであると思います。年の初めに当たり、そういう喜びを、佐世保西高の君たち全員に経験してほしいと思います。そして君たちが前向きに努力する人であってほしいと心から願っています。



共通テスト激励会 (1月15日) と共通テストに出発する3年生を激励する下級生 (1月16日)

母の会・3学年評議員支援活動

(教務：三好啓介)

1月25日(水)、母の会・3学年評議員の皆さんにより、3年生に「カツサンド」と「メロンパン」が振る舞われました。「勝つ三度」と祈りを込め、大学入学共通テストや国立大学前期試験等に向けて一つひとつにメッセージを添えて、手渡ししていただきました。生徒たちは「さあやるぞ!」という、受験に対して力強く立ち向かう励みになりました。



母の会・3学年評議員の皆さん、本当にありがとうございました。

《2月の行事予定》

3	(水)	高校入試前期選抜 (生徒は4日まで自宅学習)
6	(土)	ハイレベル模試 (1年)、進研マーク (2年)、特別講座 (3年)
7	(日)	進研マーク (2年)
10	(水)	後期期末考査時間割発表、2年理系課題研究発表会、県教委指定「ふるさと教育」報告会
13	(土)	特別講座 (3年)
18	(木)	後期期末考査 (1・2年 ~2/24)
20	(土)	特別講座 (3年)
21	(日)	第3回英検二次
25	(木)	国立大学二次試験 (前期) (~26日)
26	(金)	代休
27	(土)	考査返却特別時間割 (午前、1・2年)、卒業式式場設営・自学 (午後、1・2年)
28	(日)	考査返却特別時間割 (①1・2年)、卒業式式場設営・大掃除 同窓会入会式 卒業式予行

百人一首大会 (1学年主任：萩原 広太)

「新春百人一首大会」が1月14日(木)に開催されました。例年とは異なり、コロナウイルス感染症の対策をした上での実施となりました。個人の記録がクラスの成績に反映されるため、一句、一句読まれるたびに、真剣に札を取り合う様子が見られました。

ただ、下の句からが勝負？という班が多く見られたことも事実で、百人一首でありながら、これではカルタなのでは？という風にも見られました。1学年の職員たちが読み手となり、独特な声のトーンやリズムもあり、終始にこやかに実施できました。

また、百人一首を題材にした〇×ゲームを各クラスのHR委員たちが企画・運営し、古典学習の一助となったようです。

さらに百人一首大会の後は、謎解きゲームに取り組みました。クラスを越えてのチーム戦となり、他のクラスの生徒とコミュニケーションを取る良い機会となったようです。運営に携わった職員・生徒のみなさん、本当にありがとうございました。

<結果> 優勝 4組 準優勝 3組 3位 1組



部活動の結果報告

<ハンドボール部>

○令和2年度長崎県高等学校新人体育大会ハンドボール競技 男子 第3位、女子 第3位

○第1回みやざき整骨院杯長崎県高等学校男女ハンドボール選手権大会 女子 第3位

<放送部>

○第42回全九州高等学校総合文化祭熊本大会放送部門第42回九州高校放送コンテスト熊本大会
テレビ番組部門 「道の先に」奨励賞 代表 2年 西村友里

<吹奏楽部> ○第47回長崎県アンサンブルコンテスト 金管八重奏 銀賞

2年：田中葵、市坪千尋、菊池李、吉野彩花、宮永珠実、

1年：井上心晴、植江田和華、福野詩月

<書道部> ○第4回全九州高等学校総合文化祭(熊本大会)代替大会(書道部門)

九州高等学校文化連盟賞、書道部内席上揮毫大会 優秀賞 2年 浦川七海

国内研修旅行報告 (2学年主任：戸塚邦彦)

12月14日～17日の4日間の日程で北陸地方を中心とした国内研修旅行を実施しました。当初は、例年通りのベトナム研修旅行の予定でしたが、コロナウイルス感染拡大を受けて行先や内容が大きく変更されました。国内の感染状況、教育効果、施設の受け入れなど、様々な観点から研修地を決定したものの、感染拡大は収まらず直前までその実施が危ぶまれましたが、生徒諸君の熱い気持ち、保護者の皆様のご理解、業者や関係機関の協力を得て実施することができました。まずは、研修旅行を実施できたこと、生徒の徹底した感染予防によってそれぞれがよい思い出を作って元気に帰ってこれたことを喜びたいと思います。

1日目…名古屋城をバスの中から眺めながら飛騨高山へ移動。岐阜県のSAではすでにかかなりの雪が……。すぐにあちこちで雪合戦が始まりました。

2日目…高山市内、世界遺産白川郷での研修。古い町並みや合掌造りなどの家屋に見られる伝統美と日本人の知恵を猛吹雪の中味わいました。そして金沢へ。金沢大学では、融合科学系松島教授や大学生の皆さんから歓迎を受け貴重な学びの機会となりました。

3日目…金沢市内別班研修。金沢商業高校観光サービスコースの皆さんとの兼六園散策、和菓子作り・金箔貼・こぼし絵付けなどの体験学習、班ごとの市内研修を行いました。地域クーポンで金沢グルメを満喫する生徒も。

4日目…無事佐世保へ。

特異な状況の中での修学旅行ゆえにある意味学ぶことも多かったと思います。しっかりと周りを見て正しい判断や行動すること、目に見えるところ見えないところで自分たちを支えてくれる人々の存在に気づき感謝すること……。修学旅行中にできたことを、これからもずっと続けてもらいたいものです。

～生徒の感想より～

□修学旅行に行けるか不安でほとんど諦めかけていたけど行くことができて本当に良かった。

□白銀の町に少し憧れていたが、実際に行ってみると風景と雪の感じは最高だったものの、考えられないほど寒くて驚いた。

□高山市内散策が一番思い出に残った。夕食の飛騨牛がとてもおいしく、サービスエリアの雪にも感動した。古い町並みが素敵で普段食べない物も買うことができた。

□金沢で個人的に一番興味が湧いたのが二十一世紀美術館だった。現代美術を代表したものがあったり、現代の政治や社会を風刺したものがあったりして、自分の表現力の勉強になった。

□兼六園では金沢商業高校の生徒に案内してもらった。コロナの中で同じ高校生徒と一緒に歴史ある兼六園を回ることができて楽しかった。

□金沢大学の松島先生の話が興味深かった。これからの社会の変化やビヨンドコロナなど広い視点から進路を考えないといけないと思うようになった。

□たくさんの方の優しさに触れることができた。こんな大変な時期に遠いところから来てくれてありがとうと言われてとてもうれしかった。

□1つ自慢できることはホテルで金沢市の市長さんと同じエレベーターにのっている話をしたことだ。降り際に秘書っぽい人が「この方は金沢の市長さんよ」と教えてくれて、みんなで驚いた。

